

学位論文抄録

冠動脈ステント留置患者におけるプロトンポンプ阻害薬併用の有無による

臨床転帰の検討

(Impact of Proton Pump Inhibitor on Clinical Outcomes
in Patients with Coronary Stenting)

千年忠祐

熊本大学大学院医学教育部博士課程医学専攻循環器病態学

指導教員

小川久雄 教授

熊本大学大学院医学教育部博士課程医学専攻循環器病態学

学位論文抄録

[目的] クロピドグレルとプロトンポンプ阻害薬 (proton pump inhibitor ; PPI) の併用はクロピドグレルの抗血小板作用を減弱させ、急性冠症候群 (Acute Coronary Syndrome : ACS)、また冠動脈ステント留置後の心血管イベントのリスクの増加につながる事が報告されている一方で、両剤の併用はリスク増加には影響しないといった報告もあり、現在も一定の見解が得られていないのが現状である。本研究は日本人において冠動脈ステント留置後の臨床転帰に PPI の併用が影響するかどうかを検討した。

[方法] 本研究は熊本大学病院関連施設で冠動脈ステント留置術を施行され、アスピリン、チエノピリジン系の抗血小板剤 2 剤内服による治療を受けている 1270 人 (男性 915 人、平均 69 歳) を研究対象とした観察研究である。主要エンドポイントは心血管死、非致死性心筋梗塞、脳梗塞、2 次エンドポイントは消化管イベントとした。患者全体、クロピドグレル内服患者、ACS 患者と 3 つのカテゴリーに分類し、それぞれ PPI 群、非 PPI 群の 2 群間で 18 ヶ月間にわたりイベント発生を含めた予後追跡を行い、比較検討を行った。

[結果] PPI 群が 331 人 (26%)、非 PPI 群が 939 人 (74%) であった。クロピドグレル内服患者の内、PPI 群が 187 人 (29.7%)、非 PPI 群が 443 人 (70.3%) であった。ACS 患者での内訳は PPI 群が 171 (27.5%)、非 PPI 群が 450 人 (72.5%) であった。患者全体の内、PPI 群、非 PPI 群両群において、主要エンドポイントである心血管死 (5 vs 11 人 $P=0.43$)、非致死性心筋梗塞 (3 vs 5 人 $P=0.24$)、脳卒中 (3 vs 16 人 $P=0.51$) はそれぞれイベント発生に有意差はなかった。しかしながら、消化管イベントの発生において、PPI 群は非 PPI 群に比べ少ない傾向が認められた。(1 vs 17 人, $P=0.08$) また、クロピドグレル内服群において PPI 群と非 PPI 群で比較を行ったが、主要エンドポイントには有意差は認められなかった。(7 vs 16 人 $P=0.75$) 更には、ACS 患者においても検討を行ったが、同様に主要エンドポイントには有意差は認められなかった。(6 vs 17 人 $P=0.55$) 消化管イベントに関しては、クロピドグレル内服患者において、PPI 群で非 PPI 群と比べ少ない傾向があり (0 vs 9 人 $P=0.06$)、ACS 患者においても PPI 群で非 PPI 群と比べ少なかった。(1 vs 7 人 $P=0.14$)

[結論] 冠動脈ステント留置後の患者において PPI 併用は心血管イベントのリスク増加には関連しない。